

# 阿南市の野鳥生息状況

鳥類班（日本野鳥の会徳島県支部）

東條 秀徳\* 笠井 正 四宮 康平 庄野 孝 住友真寿美 三ツ井政夫  
三宅 武 宮本 勇 山下 拓美 吉田 和人

**要旨：**阿南市全域を調査範囲とし、2012年12月～2014年9月の22カ月間観察した結果、19日59科240種の野鳥を確認した。阿波学会調査における比較では、これまで最多であった阿波市の133種を100種以上超える記録となった。240種を生息環境で分類すると、水田およびヨシ原などを含む水辺環境を主な生息環境とする種が125種、森林や草原を主な生息環境とする種が115種であった。徳島県および／または国のレッドリスト種は87種を数えた。野生哺乳類は12種確認され、その中ではニホンジカの観察記録が多数であった。

**キーワード：**阿南市、野鳥、那賀川、出島、レッドリスト

## 1. はじめに

阿南市は、東西方向では四国本島の東端、南北では中ほどに位置し、面積は約280km<sup>2</sup>である。市面積の約半分は山地森林で、主に市の西部・中部・南部を占めている。最高峰は市の北西に位置する勝浦町境の三ツ尾（標高761.7m）である。山地森林の植生は、針葉樹人工林と広葉樹二次林が森林面積をほぼ2分し、阿南市でよく見かける竹林は意外と少なく、森林面積の約3%である。

河川では、剣山山系から流れ下ってきた那賀川と、阿南市内に源流を持つ桑野川、福井川、椿川が東流し紀伊水道に流入している。調査期間中、多くの河川で防災工事が行われ、植生等の環境変化も大きかった。

農業用溜池も多く、南部山地の谷間に小規模のものが約70カ所分散している。

市の東部は紀伊水道に面した長い海岸で、那賀川河口の南には、砂浜の淡島海岸、中林海岸、北の脇海岸と、それぞれの浜を分断する岬が続く。浜の陸側の砂丘にはクロマツを主体とした防潮林が維持されている。紀伊水道には伊島が浮かび、ここでも調査を実施したがこれについては別稿で報告する。

農耕地は市面積の約2割を占め、主に早期米一毛作の水田が、東部の平野や河川沿いの盆地に分布している。

集落は平野部や河川沿いの盆地に形成されており、川の上流部にも現住集落がある。多くの集落の辺縁に大木が生えた社寺林がある。

調査範囲は阿南市全域とし、2012年12月～2014年9月まで観察した。双眼鏡、望遠鏡、録音機等も使用し、見聞きして確認した種と個体数を記録するとともに、希少種等について写真撮影した。記録に際し、正確な地名表記が困難なこともあるため、都道府県別メッシュマップ（環境庁、2001）の、3次メッシュコードの下4桁を併記した（図1）。

## 2. 生息確認種数

今回調査で、19日59科240種の野鳥を確認した（別表1）。阿波学会調査における比較では、これまで最多であった阿波市の133種（東條ほか、2012）を100種以上超える記録となった。これまでの阿南市の野鳥生息記録としては、阿南市史（阿南市、2012）および過去の阿波学会調査結果を踏まえた羽ノ浦町誌（羽ノ浦町、1996）と那賀川町史（那賀川町、2002）があり、3市町史誌を合わせ289種が記

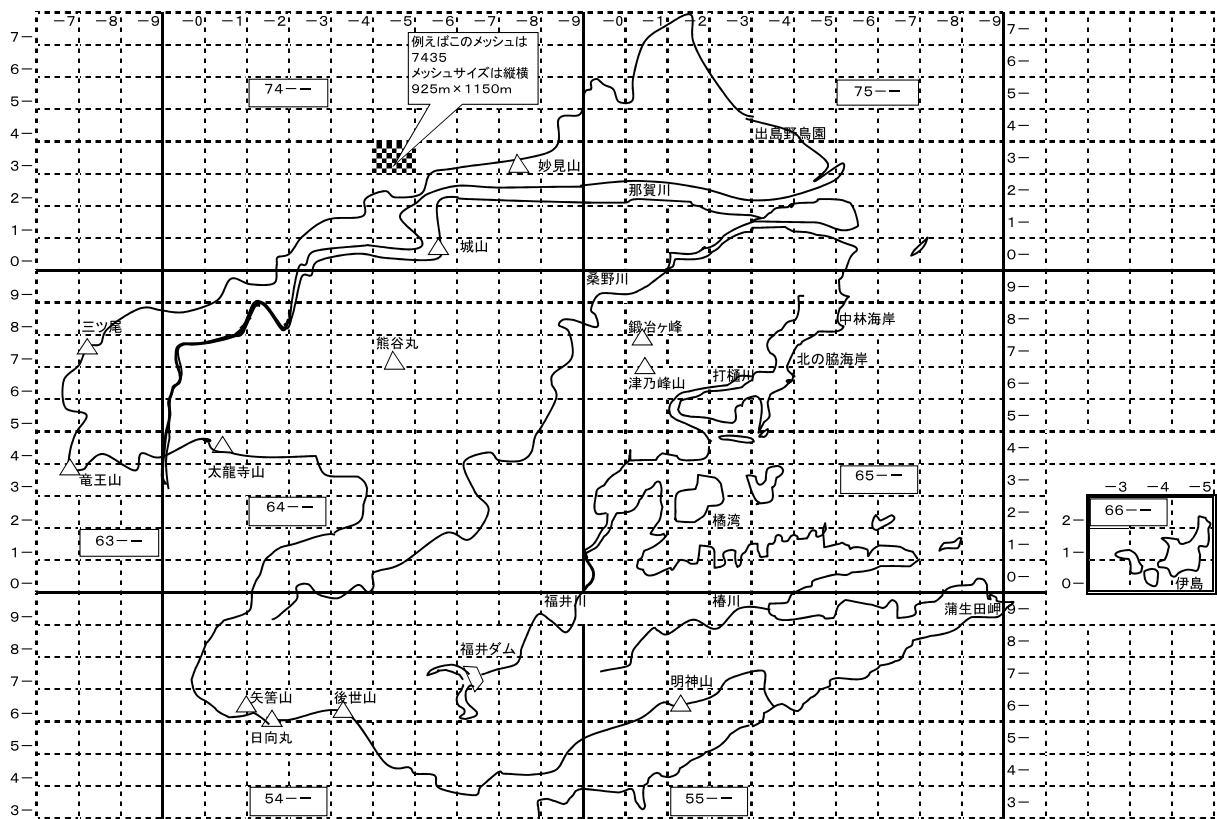


図1 調査用メッシュ地図概略

載されているが、今回記録種のうち、18種は3市町史誌に未記載であった。240種を生息環境で分類すると、水田およびヨシ原などを含む水辺環境を主な生息環境とする種が125種、森林や草原を主な生息環境とする種が115種であった。以下に阿南市の主要な環境における野鳥の観察結果を記載する。

### 3. 山地・森林の野鳥

#### 1) 山地森林の野鳥

阿南市面積の約半分を占める山地・森林環境では多種の野鳥が観察された。その中で代表的と思われる種の生息状況を記載する。

周年地域に生息する留鳥<sup>りゅうちょう</sup>の仲間では、森林生態系の最上位を占めるクマタカ(写真1)やフクロウの生息を確認した。クマタカは、個体数は少ないが市西部の山林で複数回目撃された。主に夜行性のフクロウは、低山から奥山まで市内各所で、主にさえずりにより生息確認された。前回の羽ノ浦町調査(増谷, 1985)ではフクロウの生息を確認できなかった妙見山<sup>みょうけんさん</sup>でも、林間を飛ぶ姿やさえずりにより2年連続で生息を確認した。約30年の間に、周辺山林環境がアカマツ二次林や果樹園からよく育った広



写真1 クマタカ

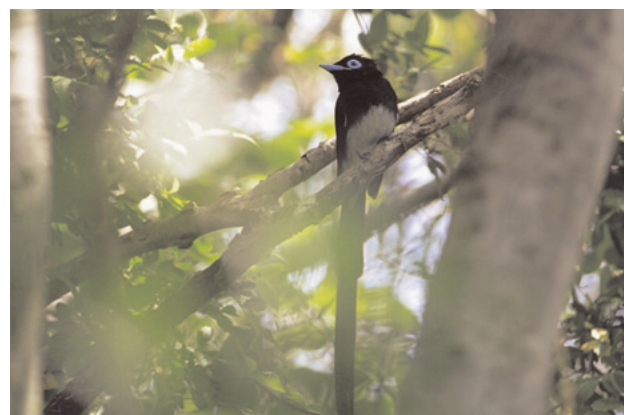


写真2 サンコウチョウ 雄

葉樹二次林へと変化していることの反映と思われる。また、主に阿波学会調査により、県内の生息情報が蓄積されつつあるキバシリも、市西部各地の壮齢杉林で観察された。

春から初夏に当地の森林に渡来し子育てをする夏鳥の仲間では、よく通る特徴的なさえずりをするホトトギス、サンコウチョウ(写真2)、キビタキ、オオルリなどは市内の各所で観察された。キビタキは阿南市の植生の特徴である孟宗竹の林にも生息していた。

2012～2013年の冬は、徳島県各所で冬鳥が多いことが話題となった。市内でもキクイタダキ(写真3)、ルリビタキ、ウソ、マヒワ、クロジ、ミヤマホオジロなど森林生息性の冬の小鳥が比較的高頻度で観察された。

## 2) 海岸線の野鳥

長い海岸線沿いに防潮林が残存し育成されているのも阿南市植生の特徴の一つである。別章とした出島地区以外に、那賀川町色ヶ島、淡島海岸、中林海岸、北の脇海岸の防潮林で観察した。その結果、4カ所の海岸線の記録合計で、春の渡り時期と越冬期を中心に、県内では希な種であるオオカラモズ(写真4)、オジロビタキ(写真5)、イスカなどを含む次の41種が確認された。上空通過種は含まない。キジ、キジバト、ヤマシギ、コゲラ、サンショウクイ、モズ、オオカラモズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、コムクドリ、シロハラ、ツグミ、ノゴマ、コルリ、ジョウビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オジロビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、カワラヒワ、マヒワ、イスカ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ。

## 4. 水辺環境の野鳥

### 1) 那賀川の観察記録

那賀川は阿南市を代表する水辺環境であるとともに、羽ノ浦町(増谷ほか, 1985)および那賀川町(増谷, 1995)の調査報告にも記載があり、今回調査でも主要な観察地とした。

#### (1) 定線調査

大京原橋上流左岸河川敷(A, 河口から約4.8km



写真3 キクイタダキ 雌



写真4 オオカラモズ



写真5 オジロビタキ 雌

が起点), 羽ノ浦町 明見の河川敷 (B, 河口から約8.6kmが起点), 持井橋上下流の南岸川原 (C, 河口から約10.5kmが起点) に約1kmの調査定線を設定し、歩行で往復し、上空を含む河川域内で観察された全種を記録した(表1)。

Aは、1994年の那賀川町調査で、「下流のグラウンド状に整備された河川敷」と比較して、「自然状態に近い所」(増谷, 1995)として観察された地域とほぼ重複している。当地は2013年には、河川敷の

一部が客土されたり、刈り払いが行われるなど、前回より自然度は低下していると思われたが、河畔にはヤナギ類やアキニレ、エノキなどが帯状に散在、ワンド状の水路沿いにはツルヨシ主体の湿地生植生が繁茂、河道の砂礫地にもクワやヤナギ類などの樹木とツルヨシ群落が散在、と比較的植生豊富であった。しかし、2014年に入り、河道や河畔の樹木や草原が除去され、河川敷の草原も刈り払われ、その中央部の広い範囲に客土されていた。

Bも1984年の羽ノ浦町調査の観察地であり、「自然環境が割合複雑」、「運動場の造成などで破壊されることがないよう望む」（増谷，1985）と記載されているが、現在は東半分が芝生広場となり、自然環境は当時より単純化していると思われる。

Cはヤナギ類やツルヨシ、ヨモギなどが疎に生えた川原で、隣接する河川敷との間には幅広い河畔林が連続している。持井橋から下流の復路としては、採草地となっている河川敷を利用した。

記録された種数はAが54種、Bが40種、Cが44種であった。種数の多少は環境多様性を反映したものであると思われる。最多種数を記録したAは、植生の多様性に加え、潮入の河口環境やワンド状水路などもあり、BとCでは観察されなかったバン類、シギ類、カモメ類が生息していた。河畔林が発達したCではコゲラ、シジュウカラ、エナガ、キビタキといった森林環境に生息する種が記録されている。一方、同じ大きな川の、中流・下流に位置し川原環境が近似し比較的距離であることから、共通した種も28種と多く、ABCいずれの地域でも過半を占めた。共通した種はカモ類・サギ類など水辺環境に生息する種およびキジ、ヒバリ（写真6）、ホオジロ類など草原環境に生息する種が主体であった。

また、Aにおいて2014年に実施された草木除去工事が野鳥の生息に影響しているかどうかを調べる目的で、2013年4～6月と2014年4～6月の生息種数を比較した（表2）。その際、対照として、草木除去作業など環境変化がなかったBについても同様の比較を行った。Aでは4月が27種から16種、5月が25種から22種と減少していた。6月は19種が20種とほぼ同数であったが、この時には、Aの広域で草本類が伸長し木本類の萌芽もあり植生がかなり復元していた。対照のBでは4月が15種から12種、5月が

表1 那賀川の3地域における確認種の比較

種名	A	B	C	種名	A	B	C
キジ	○	○	○	コゲラ			○
ヒドリガモ	○	○		チョウゲンボウ		○	
マガモ	○	○		ハヤブサ	○		
カルガモ	○	○	○	モズ	○	○	○
コガモ	○			ハシボソガラス	○	○	○
カイツブリ	○		○	ハシブトガラス	○	○	○
キジバト	○	○	○	シジュウカラ			○
カワウ	○	○	○	ヒバリ	○	○	○
ゴイサギ	○	○	○	ツバメ	○	○	○
アオサギ	○	○	○	イワツバメ			○
ダイサギ	○	○	○	ヒヨドリ	○	○	○
コサギ	○	○	○	ウグイス	○	○	○
バン	○			エナガ			○
オオバン	○			メジロ	○	○	○
ホトトギス		○	○	オオヨシキリ	○	○	○
アマツバメ		○	○	セッカ	○	○	○
イカルチドリ	○	○	○	ムクドリ	○	○	○
ヤマシギ			○	シロハラ	○		○
タシギ	○			ツグミ	○	○	○
クサシギ	○	○		ノゴマ	○		
イソシギ	○			ジョウビタキ	○	○	○
ウミネコ	○			ノビタキ	○		
カモメ	○			キビタキ			○
セグロカモメ	○			スズメ	○	○	○
コアジサシ	○			キセキレイ		○	○
ミサゴ	○	○	○	ハクセキレイ	○	○	○
トビ	○	○	○	セグロセキレイ	○	○	○
チュウヒ	○		○	タヒバリ	○	○	
ハイタカ			○	カワラヒワ	○	○	○
オオタカ	○			シメ	○		○
サシバ		○		ホオジロ	○	○	○
ノスリ	○			ホオアカ	○	○	
カワセミ	○			アオジ	○	○	○
				種数合計	54	40	44

備考：AとBは2013年1～12月まで2月以外毎月1回調査  
Cは2012年12月～2013年12月まで2月以外毎月1回調査



写真6 杭の上でさえざるヒバリ

17種から19種、6月が19種から20種と年次変化は認められていないことから、Aにおいては植生除去工事の影響が窺われる。

(2) 那賀川河口域

本報告では、河口から約6kmに設置された潮止め堰から下流を便宜上河口域とする。この河口域で

表2 2013年と2014年の確認種数

地域	A		B	
	2013	2014	2013	2014
調査年	2013	2014	2013	2014
4月	27	16	15	12
5月	25	22	17	19
6月	19	20	19	20

は水鳥に限っても、前記Aの観察記録も含め次の56種と多種が確認された。マガン、コクガン、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムルカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アカガシラサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ダイゼン、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、アオアシシギ、カラフトアオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、オバシギ、コオバシギ、ミユビシギ、トウネン、オジロトウネン、サルハマシギ、ハマシギ、ツバメチドリ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、コアジサシ、クロハラアジサシ、カワセミ。

これらの中で多数種を占めたグループは、県内ではこれまで吉野川河口でしか記録が無かった世界的希少種カラフトアオアシシギ(写真7)を含むシギ科(17種)と、国天然記念物に指定されているマガン(写真8)、コクガンを含むカモ科(14種)である。

また観察個体数の多かった種は、ヒドリガモとウミネコで、1000羽以上の多数個体が観察されることもあった。

当地域は可猟区ながら、狩猟期間にも前記ヒドリガモ他の多種多数のカモ類が生息していた。その要因として、両岸で堤防工事が継続実施されているため銃猟が抑制された可能性が考えられる。

1994年にはコアジサシ(写真9)の営巣地が見つからなかった(増谷, 1995)が、2013年6月には、大京原橋下流南岸砂州(ほうらん)で抱卵を、2014年6月~7月には、J R鉄橋上流の中洲(いくすう)で抱卵~育雛を確認した。しかし、その後に襲来した2013年4号台風、2014年12号台風の通過後には姿を見なくなった。

2) 溜池

多くの溜池には、個体数は多くないがカモ類が渡



写真7 カラフトアオアシシギ、干潟で採餌中



写真8 マガン若鳥

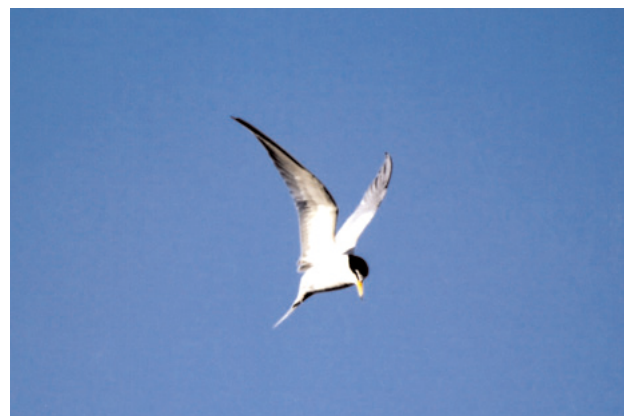


写真9 コアジサシ、飛びながら餌を捜す



写真10 カイツブリの親子

来する。中でも、銃器禁止区域となっている桑野町の山田池や内原町の宮池、橘町小勝島の池などでは、狩猟期には100羽を超えるカモ類が羽を休めていた。また、銃器禁止区域等に関係なく、多くの池でカイツブリが繁殖し（写真10）、一部の池ではバンやカルガモの繁殖も観察された。

### 3) 溪流

水のきれいな溪流に生息し、水生昆虫を主な餌とするカワガラス（写真11）が、加茂谷地区的那賀川支流と桑野川上流に生息していた。冬鳥として山地の湿地に単独渡来するアオシギは、県内では主に阿波学会調査により生息情報が蓄積されつつある種であり、今回調査でも桑野川上流で確認された。

### 4) ダム湖

福井ダム湖や那賀川の十八女堰さかりおよび南岸堰上流の河岸斜面には、コナラやアラカシなど冬の餌となる堅果類樹木けんかが茂り、冬季にはオシドリが渡来する。特に福井ダム湖では100羽を超えるオシドリ（写真12）が観察された。

### 5) 打樋川うてび

阿南市東部を緩やかに流れ新浜で橘湾に注ぐ打樋川は、銃器禁止区域となっていることや餌場となる水田が周囲に広がっていることもあり、カモ類の姿が多い。2014年1月のガンカモ調査（環境省、2014）では、684羽と多数を数えたカルガモを含め6種861羽が記録されている。さらに、これまでもガン類やハクチョウ類などの希少種の渡来記録があり、今回調査でも、2013年11月、世界的絶滅危惧種のクロツラヘラサギ（写真13）が確認された。

### 6) 集団営巣地ねぐら・罫たからだちよう

以前から宝田町の岡川左岸の河畔林にカワウの集団営巣地があったが、2013年冬春には河川工事により河畔林が部分伐採され、工事も継続中で営巣は確認できなかった。しかし、工事終了した2014年冬春には営巣が再開され、周辺にはサギ類も営巣していた（写真14）。

那賀川町の出島川河口と菊屋川河口にはヨシ原が広がっており、夏にはツバメの集団罫として利用されていた。

### 7) 海岸・沿岸

紀伊水道に沿って長い海岸および海岸から目視で



写真11 巣材をくわえたカワガラス

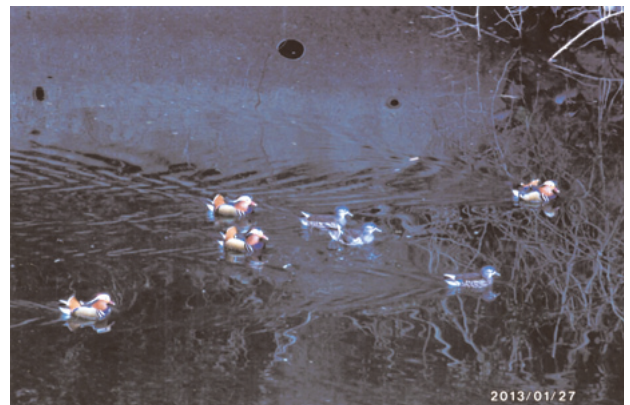


写真12 湖面を泳ぐオシドリの群れ



写真13 クロツラヘラサギ若鳥，左はコサギ



写真14 カワウとサギ類が河畔林で集団営巣

きる範囲の海上でも、次に記載の37種の水鳥が観察された。コクガン、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ビロードキンクロ、ウミアイサ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、オオミズナギドリ、ヒメウ、カワウ、ウミウ、アカガシラサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、オオバン、ムナグロ、チュウシャクシギ、キアシシギ、メリケンキアシシギ、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、コアジサシ、アジサシ、カワセミ。この中でメリケンキアシシギ(写真15)は徳島県の初認記録(吉田, 2014)である。また、橘湾の南北に浮かぶ二つの弁天島はカワウ及びサギ類の塹および営巣地となっていた。

## 5. 農耕地および集落の野鳥

農耕地のほとんどを占める水田では、春の耕起こうきから幼苗ようびょうの頃と稲刈り後には、夏鳥のアマサギやチュウサギ(写真16)などシラサギ類にゅうじゆくが、乳熟期から稲刈り後にはスズメが、稲刈り作業中の上空にはツバメが、それぞれ群れて採餌する姿がよく見られた。

平野部では耕作放棄地はまだ少ないが、那賀川町色ヶ島のヨシ原化した1カ所はツバメの集団塹となっていた。

主に海岸沿いの那賀川町や見能林町の、春秋の水が溜まった田や冬の湿田には、個体数は少ないが次に記載する24種と多種類のシギ・チドリ類が飛来した。タゲリ、ケリ(写真17)、ムナグロ、コチドリ、セイタカシギ、タシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、ヒバリシギ、アメリカウズラシギ、ウズラシギ、サルハマシギ、ハマシギ、エリマキシギ。

また、水稲一毛田は、冬季は耕起された裸地または草丈低い草原となり、ヒバリ科、セキレイ科、アトリ科、ホオジロ科などの群れが観察された。

ツバメとスズメは、民家への営巣等、現在では人の生活に依拠いきよしており、住宅環境の変化や過疎化かそかの進展とともに生息域が狭まっている種であるが、今



写真15 メリケンキアシシギ



写真16 チュウサギ夏羽



写真17 ケリ, 2 番穂が残る冬の田に

回調査では、両種とも加茂谷地区かもだに、新野町あらたの、福井町などの山間部集落や半島部の椿泊つばきどまりにも普通に生息していた。

ツバメと同科のコシアカツバメとイワツバメ(写真18)は、主にコンクリート建造物に営巣する。前者は、近年徳島県内では減少傾向で、今回調査でも古巣しか残っていない校舎等も多かったが、橘湾周辺では各所に分散して営巣が確認された。後者は、阿南市南隣の海部郡では各地で営巣が確認されてい

るが、これまで阿南市では営巣未確認であった。今回調査で、初めて、2014年5月に福井町のコンクリート橋下に巣作り中の複数個体群を確認した。

徳島県では越冬記録の希なニューナイスズメ（写真19）の群れが2冬連続して新野町甘枝<sup>はたえだ</sup>地域に飛来し、2番穂の生えた田や集落内の電線、庭木などで数10羽が観察された。

市内各地の集落内あるいは集落辺縁に、大木林に囲まれた神社が散在している。これらの複数神社では、夏鳥として渡来し樹洞に営巣する小型のフクロウ類アオバズクの生息記録（増谷，1995）（阿南市史，2012）があるが、今回調査でも、8カ所の神社で生息を確認した。一方、過去に生息記録のあった4カ所では、林の環境に大きな変化はないにもかかわらず、複数回観察しても生息が確認できなかった。

## 6. 那賀川町出島地区の野鳥

県内で唯一の野鳥公園が存在すること、および前回の那賀川町調査（増谷，1995）でも「出島湿原」として1章を当て、周辺を含む野鳥生息状況に言及していることから、今回も主要な調査地域として観察した。かつて、那賀川河口北西の海岸沿いに、湿原が広がり、野鳥の生息適地となっていたが、いわゆるリゾート法によりゴルフ場を核とした集客施設への開発が計画された。当時、それに対する自然保護（湿原保全）活動が起こりその結果、5haの野鳥公園と、それに連続する4haのヨシ原が野鳥生息地（1995年竣工）として残され、隣接するゴルフ場の西半分も人と野鳥の共存ゾーンと設定された。

当地では、野鳥園開設前から日本野鳥の会徳島県支部により、野鳥園沿いとその内陸部を巡るコースで毎月1回の野鳥観察会（探鳥会）が実施されている。その記録によれば、那賀川町阿波学会調査が行われた1994年には75種、翌1995年には78種の野鳥が確認されているが、今回調査年の2012年の確認種は61種、2013年70種と減少している。約20年が経過し、野鳥園内では良好な生息環が保全されているが、内陸部コース沿いでは、樹林面積の減少や、湿田の乾田化・埋め立てなど、野鳥生息環境としては不適な変化があることの反映と思われる。

一方、当地がチュウヒ（写真20）やサンカノゴイ（写真21）など希少な野鳥の観察・撮影好適地であ



写真18 イワツバメ、水田で巣材を集める

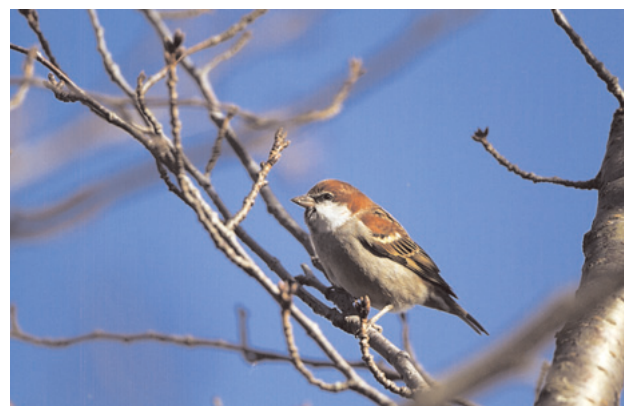


写真19 桜の枝に飛来したニューナイスズメ 雄



写真20 湿原を見下しながら飛ぶチュウヒ



写真21 ガマ群落沿いの水辺を歩くサンカノゴイ



るとの情報があるが、近年、近隣府県にも伝わり、訪れる観察者が増加、結果として観察頻度も高まり記録される種も多くなっている。2012年12月～2014年9月の間に、出島野鳥園とその周辺を含む出島地区で記録された野鳥は次の167種であり、前回調査における那賀川町全域の確認種数105種を大きく超えた。ウズラ、キジ、コクガン、オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、アオバト、コゲンカンドリ、カワウ、サンカノゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、アカガシラサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クロサギ、クイナ、ヒメクイナ、ヒクイナ、バン、オオバン、ジュウイチ、ホトトギス、ツツドリ、カッコウ、ヨタカ、アマツバメ、タゲリ、ケリ、ムナグロ、コチドリ、メダイチドリ、セイタカシギ、ヤマシギ、オオジシギ、チュウジシギ、タシギ、チュウシャクシギ、ツルシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、レンカク、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、コアジサシ、アジサシ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、フクロウ、トラフズク、コミミズク、カワセミ、アリスイ、コゲラ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサ、サンショウクイ、オウチュウ、サンコウチョウ、モズ、

アカモズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、シジュウカラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、オオムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、オオセッカ、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヒレンジャク、ムクドリ、コムクドリ、ホシムクドリ、マミジロ、トラツグミ、クロツグミ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ノゴマ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、ホオアカ、ミヤマホオジロ、ノジコ、アオジ、オオジュリン。

### 7. タカの渡り

多くの野鳥と同様に、タカ類の多くも繁殖地と越冬地間の移動（渡り）を行う。その渡り飛行は、上昇気流を利用して高空に舞い上がり、その後滑空して移動する省エネ飛行である。そのため、上昇気流のできやすい条件の天気（晴れ）・時間帯（日中）や地形（山上、岬・島）に多くの個体が集中し、これらを結ぶ渡りルートが存在が知られている。日本野鳥の会徳島支部による長年の観察の結果、鳴門海峡とともに阿南市各所も、タカ渡りルート下に位置していることが確認されている（日本野鳥の会徳島支部、2003）。今回調査地も既知の観察地点であり、それぞれ多数のタカが記録された（表3）。

表3 主要なタカ渡り観察記録

観 察 地	観 察 日	天 気	開 始	終 了	サシバ	ハチクマ	ノスリ	ハイタカ	その他タカ
東部自然公園	2013.3.30	晴れ	5:50	15:00	367				
淡島～中林	2014.4.19	晴れ	5:28	9:20	151			1	
蒲生田岬	2013.5.6	快晴	8:00	13:00	64	3	9	2	A2
蒲生田岬	2013.5.21	薄曇り	9:00	12:10	18	29			
蒲生田岬	2014.5.17	晴れ	8:00	14:30	42	16	2		
後世山	2013.10.12	快晴	7:09	15:00	157	1			B1, C1
椿自然園	2013.10.12	快晴	7:05	15:00	113				A1, C1
蒲生田岬	2013.10.14	晴れ	8:00	14:30	79	29	14	8	A2, D2
蒲生田岬	2013.11.2	晴後曇	8:40	14:30			4	59	A5
伊島	2013.10.29	晴れ	9:15	14:30			6	407	A3, D2

備考1：その他タカは、A：ツミ、B：オオタカ、C：チョウゲンボウ、D：チゴハヤブサ

備考2：サシバ、ハチクマ、ノスリ、その他タカの飛行方向は、春は西→東、秋は東→西

備考3：ハイタカの飛行方向は春は東→西、秋は西→東

なお、春に観察される東部自然公園付近における多数のサシバの峙立ちと、晩秋の伊島や蒲生田岬における多数のハイタカ（写真22）の渡りは、全国的にも特筆できるものである。

## 8. 野生哺乳類

鳥類調査に伴って観察された哺乳類も記録した。山地森林環境のある町村における過去の阿波学会調査では10種前後が記録されているが、今回の調査でも、ニホンイノシシ（写真23）、ニホンザルなど10種と種不明のイタチと小型コウモリを確認した（別表2）。

今回観察された哺乳類の中で、観察事例が多かったのはニホンジカであった。生息域は、観察頻度の高かった市西部の加茂谷地区や新野町等の山地だけでなく、津乃峰山麓や椿町の山林、さらには羽ノ浦町的那賀川河川敷に及んだ。

## 9. 目録

2012年12月から2014年9月までの22ヶ月間の観察記録から、「別表1 阿南市野鳥目録」を作成した。番号の左にRを付記した種は、国および／または徳島県のレッドリスト種で、87種を数える。コジュケイ、ドバト、ソウシチョウ、セキセイインコは、日本鳥類目録（日本鳥類目録編集委員会：2012年）に従い外来種として区別した。コウノトリ（写真24）は脚に装着された標識から豊岡市の野生復帰プロジェクト対象個体（山下，2013）であることが明らかであり野生化種とした。アイガモは家畜化されたマガモ交雑種が逃散あるいは投棄されたものであり、野生化種とした。さらに別添CDには、種名の下に行に、各種の代表的な記録を、左から、西暦年/月/日、個体数、地名、メッシュ番号、地上標高（m）、環境または行動の内容で記載した。

また同様に、野生哺乳類の記録についても、本稿と別添CDに「別表2 阿南市野生哺乳類目録」を作成した。

### 写真撮影者

写真2, 21：宮本  
写真7：庄野  
写真13：四宮  
写真4, 8, 15, 24：山下  
写真11, 19：三ツ井  
その他：東條



写真22 ハイタカ 雌



写真23 ニホンイノシシ 雌



写真24 脛に色輪を装着されたコウノトリ

### 文献

- 阿南市（2012）：阿南市史第5巻（自然環境・民俗），209－221頁。
- 環境省（2014）：ガンカモ類の生息調査の成果物の提供ページ。  
（[www.biodic.go.jp/gankama/seikabutu/](http://www.biodic.go.jp/gankama/seikabutu/)）
- 環境庁自然保護局計画課自然環境調査室（1997），都道府県別メッシュマップ36徳島県，自然環境研究センター。
- 環境庁自然保護局野生生物課（1993）：『日本産野生生物目録—本邦産野生動物植物の種の現状—脊椎動物編』，自然環境研究センター。
- 中国四国農政局徳島統計・情報センター（2004）：『徳島農林水産統計年報，徳島農林水産統計協会。
- 東條秀徳（2010）：阿波市「阿波町・吉野町」の野鳥生息状況，阿波学会紀要第56号，47－60頁。

徳島県 (1996) : 『徳島県環境資源図 (現存植生・土地利用図)』  
 徳島県県民環境部環境総局自然環境課 (2011) : 徳島県レッド  
 リスト (改訂版) 1. 鳥類, 徳島県ホームページ  
 ([http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red\\_date.html/](http://www.pref.tokushima.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/)).  
 徳島県 (2013) : 『徳島県鳥獣保護区等位置図 (平成25年度)』  
 那賀川町 (2002) : 那賀川町史上巻. 105-120頁.  
 日本鳥類目録編集委員会 (2012) : 『日本鳥類目録 (改訂第7  
 版)』, 日本鳥学会.  
 日本野鳥の会徳島県支部 (2003) : 徳島のタカの渡り.

羽ノ浦町 (1996) : 羽ノ浦町誌自然環境編, 465-586頁.  
 増谷正幸ほか (1985) : 羽ノ浦町の鳥類, 郷土発表会紀要第31  
 号, 57-73頁.  
 増谷正幸 (1995) : 那賀川町の鳥類, 阿波学会紀要第41号,  
 63-83頁.  
 山下拓美 (2013) : コウノトリの調査記録, 野鳥徳島No.423,  
 2-4頁. 日本野鳥の会徳島県支部  
 吉田和人 (2014) : メリケンキアシシギのこと, 野鳥徳島  
 No.431, 6-7頁. 日本野鳥の会徳島県支部

### Status of wild birds in Anan City

TOUJOU Hidenori\*, KASAI Tadashi, SHINOMIYA Kouhei, SHOUNO Takashi, SUMITOMO Masumi, MITSUI Masao, MIYAKE Takeru,  
 MIYAMOTO Isamu, YAMASHITA Takumi, YOSHIDA Kazuhito.

\* 24-77 Sangenyacho-soto, Tokushima, 770-8025 JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.60 (2015), pp.39-52.

### 別表1 阿南市野鳥目録

(番号左のRは, 改訂版徳島県レッドリスト記載種を示す)

#### ◎ キジ目 GALLIFORMES

##### ○ キジ科 Phasianidae

- R 1 ウズラ *Coturnix japonica*  
 2 ヤマドリ *Syrnaticus soemmerringii*  
 3 キジ *Phasianus colchicus*

#### ◎ カモ目 ANSERIFORMES

##### ○ カモ科 Anatidae

- R 4 マガン *Anser albifrons*  
 R 5 コクガン *Branta bernicla*  
 6 オシドリ *Aix galericulata*  
 7 オカヨシガモ *Anas strepera*  
 8 ヨシガモ *Anas falcata*  
 9 ヒドリガモ *Anas penelope*  
 10 アメリカヒドリ *Anas americana*  
 11 マガモ *Anas platyrhynchos*  
 12 カルガモ *Anas zonorhyncha*  
 13 ハシビロガモ *Anas clypeata*  
 14 オナガガモ *Anas acuta*  
 15 シマアジ *Anas querquedula*  
 R 16 トモエガモ *Anas formosa*  
 17 コガモ *Anas crecca*  
 18 ホシハジロ *Aythya ferina*  
 19 キンクロハジロ *Aythya fuligula*  
 20 スズガモ *Aythya marila*  
 R 21 ビロードキンクロ *Melanitta fusca*  
 22 カワアイサ *Mergus merganser*  
 R 23 ウミアイサ *Mergus serrator*

#### ◎ カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

##### ○ カイツブリ科 Podicipedidae

- 24 カイツブリ *Tachybaptus ruficollis*  
 R 25 アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena*  
 R 26 カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*  
 27 ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

#### ◎ ハト目 COLUMBIFORMES

##### ○ ハト科 Columbidae

- 28 キジバト *Streptopelia orientalis*  
 29 アオバト *Treron sieboldii*

#### ◎ アビ目 GAVIIFORMES

##### ○ アビ科 Gaviidae

- R 30 オオハム *Gavia arctica*  
 31 ハシジロアビ *Gavia adamsii*

#### ◎ ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES

##### ○ ミズナギドリ科 Procellariidae

- R 32 オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*  
 33 ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris*

#### ◎ カツオドリ目 SULIFORMES

##### ○ グンカンドリ科 Fregatidae

- 34 コグンカンドリ *Fregata ariel*

##### ○ ウ科 Phalacrocoracidae

- R 35 ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*  
 36 カワウ *Phalacrocorax carbo*  
 37 ウミウ *Phalacrocorax capillatus*

#### ◎ ペリカン目 PELECANIFORMES

##### ○ サギ科 Ardeidae

- R 38 サンカノゴイ *Botaurus stellaris*  
 R 39 ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*  
 R 40 ミゾゴイ *Gorsachius goisagi*  
 41 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*  
 R 42 ササゴイ *Butorides striatus*  
 R 43 アカガシラサギ *Ardeola bacchus*  
 44 アマサギ *Bubulcus ibis*  
 45 アオサギ *Ardea cinerea*  
 46 ダイサギ *Egretta alba*  
 R 47 チュウサギ *Egretta intermedia*  
 48 コサギ *Egretta garzetta*  
 49 クロサギ *Egretta sacra*

##### ○ トキ科 Threskiornithidae

- R 50 クロツラヘラサギ *Platalea minor*

◎ ツル目 GRUIFORMES

- クイナ科 Rallidae  
 R51 クイナ *Rallus aquaticus*  
 R52 ヒメクイナ *Porzana pusilla*  
 R53 ヒクイナ *Porzana fusca*  
 54 バン *Gallinula chloropus*  
 55 オオバン *Fulica atra*

◎ カッコウ目 CUCULIFORMES

- カッコウ科 Cuculidae  
 R56 ジュウイチ *Hierococcyx hyperythrus*  
 57 ホトトギス *Cuculus poliocephalus*  
 58 ツツドリ *Cuculus optatus*  
 59 カッコウ *Cuculus canorus*

◎ ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES

- ヨタカ科 Caprimulgidae  
 R60 ヨタカ *Caprimulgus indicus*

◎ アマツバメ目 APODIFORMES

- アマツバメ科 Apodidae  
 61 ハリオアマツバメ *Hirundus caudacutus*  
 62 アマツバメ *Apus pacificus*  
 63 ヒメアマツバメ *Apus nipalensis*

◎ チドリ目 CHARADRIIFORMES

- チドリ科 Charadriidae  
 64 タゲリ *Vanellus vanellus*  
 R65 ケリ *Vanellus cinereus*  
 R66 ムナグロ *Pluvialis fulva*  
 67 ダイゼン *Pluvialis squatarola*  
 R68 イカルチドリ *Charadrius placidus*  
 69 コチドリ *Charadrius dubius*  
 R70 シロチドリ *Charadrius alexandrinus*  
 71 メダイチドリ *Charadrius mongolus*  
 R72 オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*

- ミヤコドリ科 Haematopodidae  
 R73 ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

- セイタカシギ科 Recurvirostridae  
 R74 セイタカシギ *Himantopus himantopus*

- シギ科 Scolopacidae  
 R75 ヤマシギ *Scolopax rusticola*  
 76 アオシギ *Gallinago solitaria*  
 R77 オオジシギ *Gallinago hardwickii*  
 78 チュウジシギ *Gallinago megala*  
 79 タシギ *Gallinago gallinago*  
 R80 オグロシギ *Limosa limosa*  
 R81 オオソリハシシギ *Limosa lapponica*  
 82 チュウシヤクシギ *Numenius phaeopus*  
 R83 ダイシヤクシギ *Numenius arquata*  
 R84 ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*  
 R85 ツルシギ *Tringa erythropus*  
 R86 アカアシシギ *Tringa totanus*

- R87 コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*  
 88 アオアシシギ *Tringa nebularia*  
 R89 カラフトアオアシシギ *Tringa guttifer*  
 90 クサシギ *Tringa ochropus*  
 R91 タカブシギ *Tringa glareola*  
 92 キアシシギ *Heteroscelus brevipes*  
 93 メリケンキアシシギ *Heteroscelus incanus*  
 94 ソリハシシギ *Xenus cinereus*  
 95 イソシギ *Actitis hypoleucos*  
 96 キョウジョシギ *Arenaria interpres*  
 97 オバシギ *Calidris tenuirostris*  
 R98 コオバシギ *Calidris canutus*  
 99 ミユビシギ *Calidris alba*  
 100 トウネン *Calidris minuta*  
 R101 オジロトウネン *Calidris temminckii*  
 R102 ヒバリシギ *Calidris subminuta*  
 R103 アメリカウズラシギ *Calidris melanotos*  
 R104 ウズラシギ *Calidris acuminata*  
 R105 サルハマシギ *Calidris ferruginea*  
 R106 ハマシギ *Calidris alpina*  
 107 エリマキシギ *Philomachus pugnax*  
 108 アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

- レンカク科 Jacanidae  
 109 レンカク *Hydrophasianus chirurgus*

- タマシギ科 Rostratulidae  
 R110 タマシギ *Rostratula benghalensis*

- ツバメチドリ科 Glareolidae  
 R111 ツバメチドリ *Glareola maldivarum*

- カモメ科 Laridae  
 112 ユリカモメ *Larus argentatus*  
 113 ウミネコ *Larus crassirostris*  
 114 カモメ *Larus canus*  
 115 ワシカモメ *Larus glaucescens*  
 116 シロカモメ *Larus hyperboreus*  
 117 セグロカモメ *Larus argentatus*  
 118 オオセグロカモメ *Larus schistisagus*  
 R119 コアジサシ *Sterna albifrons*  
 120 アジサシ *Sterna hirundo*  
 R121 クロハラアジサシ *Chlidonias hybridus*

- トウゾクカモメ科 Stercorariidae  
 122 トウゾクカモメ *Stercorarius pomarinus*

- ウミスズメ科 Alcidae  
 R123 ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*

◎ タカ目 ACCIPITRIFORMES

- ミサゴ科 Pandionidae  
 R124 ミサゴ *Pandion haliaetus*

- タカ科 Accipitridae  
 R 125 ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*  
 126 トビ *Milvus migrans*  
 R 127 オジロワシ *Haliaeetus albicilla*  
 R 128 チュウヒ *Circus spilonotus*  
 R 129 ハイイロチュウヒ *Circus cyaneus*  
 130 アカハラダカ *Accipiter soloensis*  
 131 ツミ *Accipiter gularis*  
 R 132 ハイタカ *Accipiter nisus*  
 R 133 オオタカ *Accipiter gentilis*  
 R 134 サシバ *Butastur indicus*  
 135 ノスリ *Buteo buteo*  
 136 ケアシノスリ *Buteo lagopus*  
 R 137 クマタカ *Nisaetus nipalensis*
- フクロウ目 STRIGIFORMES  
 ○ フクロウ科 Strigidae  
 R 138 オオコノハズク *Otus lempiji*  
 139 フクロウ *Strix uralensis*  
 R 140 アオバズク *Ninox scutulata*  
 R 141 トラフズク *Asio otus*  
 R 142 コミミズク *Asio flammeus*
- ブッポウソウ目 CORACIIFORMES  
 ○ カワセミ科 Alcedinidae  
 143 アカショウビン *Halcyon coromanda*  
 144 カワセミ *Alcedo atthis*
- キツツキ目 PICIFORMES  
 ○ キツツキ科 Picidae  
 145 アリスイ *Jynx torquilla*  
 146 コゲラ *Dendrocopos kizuki*  
 R 147 オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*  
 148 アオゲラ *Picus awokera*
- ハヤブサ目 FALCONIFORMES  
 ○ ハヤブサ科 Falconidae  
 149 チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*  
 150 コチョウゲンボウ *Falco columbarius*  
 151 チゴハヤブサ *Falco subbuteo*  
 R 152 ハヤブサ *Falco peregrinus*
- スズメ目 PASSERIFORMES  
 ○ ヤイロチョウ科 Pittidae  
 R 153 ヤイロチョウ *Pitta brachyura*
- サンショウクイ科 Campephagidae  
 R 154 サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus*
- オウチュウ科 Dicruridae  
 155 オウチュウ *Dicrus macrocerus*
- カササギヒタキ科 Monarchidae  
 156 サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*
- モズ科 Laniidae  
 157 モズ *Lanius bucephalus*  
 R 158 アカモズ *Lanius cristatus*
- 159 オオカラモズ *Lanius sphenocercus*
- カラス科 Corvidae  
 160 カケス *Garrulus glandarius*  
 161 ハシボソガラス *Corvus corone*  
 162 ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*
- キクイタダキ科 Regulidae  
 163 キクイタダキ *Regulus regulus*
- シジュウカラ科 Paridae  
 164 コガラ *Poecile montanus*  
 165 ヤマガラ *Poecile varius*  
 166 ヒガラ *Periparus ater*  
 167 シジュウカラ *Parus minor*
- ヒバリ科 Alaudidae  
 168 ヒバリ *Alauda arvensis*
- ツバメ科 Hirundinidae  
 169 ショウドウツバメ *Riparia riparia*  
 170 ツバメ *Hirundo rustica*  
 R 171 コシアカツバメ *Hirundo daurica*  
 172 イワツバメ *Delichon dasypus*
- ヒヨドリ科 Pycnonotidae  
 173 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*
- ウグイス科 Sylviidae  
 174 ウグイス *Cettia diphone*  
 175 ヤブサメ *Urosphena squameiceps*
- エナガ科 Aegithalidae  
 176 エナガ *Aegithalos caudatus*
- ムシクイ科 Phylloscopidae  
 177 オオムシクイ *Phylloscopus examinandus*  
 R 178 メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*  
 R 179 エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides*  
 180 センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*
- メジロ科 Zosteropidae  
 181 メジロ *Zosterops japonicus*
- センニュウ科 Locustellidae  
 R 182 オオセッカ *Locustella pryeri*  
 R 183 エゾセンニュウ *Locustella fasciolata*
- ヨシキリ科 Acrocephalidae  
 184 オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*  
 185 コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*
- セッカ科 Cisticolidae  
 186 セッカ *Cisticola juncidis*
- レンジャク科 Bombycillidae  
 187 ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

○ ゴジュウカラ科 Sittidae		229 ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>
188 ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	230 シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>
○ キバシリ科 Certhiidae		231 イカル	<i>Eophona personata</i>
R189 キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	○ ホオジロ科 Emberizidae	
○ ミソサザイ科 Troglodytidae		232 ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>
190 ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	233 ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>
○ ムクドリ科 Sturnidae		234 コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>
191 ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	235 カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>
192 コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	236 ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>
193 ホシムクドリ	<i>Sturnus vulgaris</i>	R237 ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>
○ カワガラス科 Cinclidae		R238 アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>
194 カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	R239 クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>
○ ヒタキ科 Muscipidae		240 オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>
195 マミジロ	<i>Turdus sibiricus</i>	<外来種・野生化種>	
R196 トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	◎ キジ目 GALLIFORMES	
197 クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○ キジ科 Phasianidae	
198 マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>
199 シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	◎ カモ目 ANSERIFORMES	
R200 アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○ カモ科 Anatidae	
201 ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	アイガモ (マガモ)	<i>Anas platyrhynchos</i>
R202 コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	◎ ハト目 COLUMBIFORMES	
203 ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	○ ハト科 Columbidae	
204 コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	ドバト (カワラバト)	<i>Columba livia</i>
R205 ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	◎ コウノトリ目 CICONIIFORMES	
206 ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	○ コウノトリ科 Ciconiidae	
207 ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>
208 イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	◎ スズメ目 PASSERIFORMES	
209 エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○ スズメ科 Timaliidae	
R210 サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>
211 コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	◎ オウム目 PSITTACIFORMES	
212 キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○ インコ科 Psittacidae	
213 オジロビタキ	<i>Ficedula parva</i>	セキセイインコ	<i>Melopsittacus undulatus</i>
214 オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		
○ スズメ科 Passeridae			
215 ニュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>		
216 スズメ	<i>Passer montanus</i>		
○ セキレイ科 Motacillidae			
217 ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>		
218 キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>		
219 ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>		
220 セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		
221 マミジロタヒバリ	<i>Anthus novaeseelandiae</i>		
222 ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		
223 タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>		
○ アトリ科 Fringillidae			
224 アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		
225 カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>		
R226 マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		
227 ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		
R228 イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		

別表2 阿南市野生哺乳類目録

- 1 ヒミズ (モグラ目 [食虫目] モグラ科)
- 2 ニホンザル (サル目 [霊長目] オナガザル科)
- 3 ノウサギ (ウサギ目ウサギ科)
- 4 ニホンリス (ネズミ目 [齧歯目] リス科)
- 5 タヌキ (ネコ目 [食肉目] イヌ科)
- 6 キツネ (ネコ目 [食肉目] イヌ科)
- 7 イタチ (ネコ目 [食肉目] イタチ科)
- 8 アナグマ (ネコ目 [食肉目] イタチ科)
- 9 ハクビシン (ネコ目 [食肉目] ジャコウネコ科)
- 10 ニホンジカ (ウシ目 [鯨偶蹄目] シカ科)
- 11 イノシシ (ウシ目 [鯨偶蹄目] イノシシ科)
- 12 小型コウモリ (コウモリ目 [翼手目])